（別紙4）　　平成　22　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2072700723		
法人名	社会福祉法人協立福祉会		
事業所名	高齢者グループホームなのはな		
所在地	長野県東筑摩郡山形村２５２６－１		
自己評価作成日	平成23年3月14日	評価結果市町村受理日	平成23年6月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072700723&SCD=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社マスネットワーク　医療福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成23年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

もうじき7年目に入るなのはな。２０１０年、暑い夏が過ぎ、その後、開所（２００５年）以来の入居者の身体状況が下がってきた。一年一年と老いを重ねていく利用者の方々が自分らしく老いを重ねていける居場所として、なのはなが再び出発した。隣り診療所の往診、訪問看護との連携が利用者の方々の安全・安心につなげられていく。これからも9人の利用者の方々に向けて、家族と共に、一緒に悩み、一緒に考えていく介護実践を続けていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「高齢者グループホームなのはな」は社会福祉法人協立福祉会に属し、山形協立診療所（通所リハビリテーション、訪問看護ステーション併設）に隣接されている。医療連携体制による入居者の日常的な健康管理や終末期の支援により、ご家族の介護負担軽減につながり、入居者やご家族の安全・安心と暮らしの安定が確保されている。母体代表者の良好な運営体制(施設内研修・施設内連携・賃金等）や運営方針が確立されている。管理者の専門性と豊かな実践経験を活かし職員と共に、地域密着型サービスの役割を考え、果たすべき役割を反映したホーム理念「一人ひとりの入居者が地域で生き生きと暮らし、自分らしく老いを重ねていける生活の提案等」を作りあげ、入居者に笑顔を持って寄り添いながら感情豊かに過せる暮らしのケアに努められている。入居者は大変穏やかに、ゆっくり、ゆったりと過されている。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) ＋ (Enterキー) です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域で活き活きと暮らし、自分らしく老いを重ねていける生活の提案を家族と共に一緒に悩み、一緒に考えていく介護の実践」を新しくなのはなの理念として掲げた。	これまでの理念を見直し、住み慣れた地域で生き生きと笑顔を持って安心した暮らし、関係性の継続、地域生活の継続を支えるための支援を組み入れた理念を、職員全員で作りあげている。ホーム玄関や事務所に掲示して理念を共有し、確認し合い実務に当たられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎日の散歩時の交流、保育園や中学校との交流もある。職員も2名が山形村の住人である。	日常的な散歩や地域のデイホーム、デイケアへの訪問により近隣住民との交流をされている。なお隣接診療所で行われる健康祭りに参加したりホームに訪れる保育園児や小･中学生、ボランティアレクの方々との交流を積極的に行い、地域に開かれたホームに向けて努力をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時等の機会に近隣の方々との交流も毎回あり、声をかけてくれる方も多い。施設への理解も示してくれている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２０１０年、初めて家族と運営推進会議の合同を行なってみた。以前より多くの方々の参加が出来(9名の利用者も参加)多くの意見交換が出来た。	運営推進会議と家族会による合同会議を開催し、入居者9名とご家族、区長、村担当者等の参加を得て、利用状況やホームの取り組み、今後の課題について話し合いが行われている。	防災対策の件や離設防止の件等ホームには検討事項や懸案事項が山積みである。今後更に専門分野（消防署･警察署等）の方々や地域住民（民生委員･新聞屋･郵便局･保育園･小中学校等）など幅広い立場の人に積極的に参加して頂き、メンバーからの質問、意見、要望を受け双方向的な会議により、サービスの向上に繋がることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村からの認知症研修に参加。同時に村の施設関係者とのケアサービス研修にも参加が出来た。	村で開催された認知症研修やケアサービス研修に参加して情報交換がおこなわれている。なおホーム内で困難事例が発生した折には担当職員に相談掛けがおこなわれている。	

外部評価結果(グループホームなのはな)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は玄関等の施錠をせずに暮らしている。	身体拘束等の排除のための取り組みに関する事業所の理念、方針等が契約書に明記されている。職員全員が拘束内容とその弊害をしっかりと認識し、身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体、言葉での暴力について話し合う機会を設け、職員間で協力している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者の方から職員へ簡単に説明したことはある。今後、仕事を通して職員の中に浸透していけるよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている	行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	昨年度の9月に初めて家族会と地域運営会議を合同して会議を開く。全員の利用者、家族がなのはな職員と共に地域の方に触れ、話し合いをした。各家族、利用者の方から思い思いの意見が出され、その後に反映されている。	家族会や地域運営推進会議出席時に利用者やご家族が意見･要望の表出できるような場面づくりに配慮されている。なお意見箱やご家族へのアンケートから出された意見や希望は部会で話し合い運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の部会やミニ部会の内容を主任会、職代会へ持ち上げることで職員の意見交換の反映を行なっている。	職員全員で行われる部会やミニ部会（当日勤務に当たられている職員）、管理者による個別面談が季節毎に行われ、業務の関わりや方法など情報交換により職員の意見が運営に反映されている。なお職員が自由に意見を伝えることのできる雰囲気がつくられている。	

外部評価結果(グループホームなのはな)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境･条件の整備に努めている	代表者は、職員等が向上心を持って働けるよう、職場環境･条件の整備に努めている。今までも様々な意見交換をしてきた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が内外での研修を受けられるよう配慮してくれている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組んでいる。同じ法人のグループホームとの交流が主。法人内で3つのグループホームの合同家族会を毎年、主催している。なのはなでは、地域のデイケアやデイホームとの交流も行い、地域交流も進めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心してサービスを利用できるように、サービスをいきなり開始するという形でなく、「通所デイ」という形を取り入れている。2，3日通ってもらい、様子を見ながら対応を考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームという施設のあり方をしっかり説明し、安心して入居して頂けるように関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人の生活者として、支援に当たっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なのはなでの一方的な支援にならない様、家族と共に協力連携、相談しながら本人を支えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの関係が引き続き続行出来る様、ここの施設自体も親しみのある入りやすい雰囲気となるよう、職員の対応も心掛けている。入居以前の関係も引き続き、続けていけるよう本人の意見や想いを確認し、支援に当たっている。	デイケアやデイホームへ訪問して地域で暮らす馴染みの知人･友人との継続的な交流や親族への通信支援を行っている。なお入居者一人ひとりの行きたい場所を把握しながら実現に向けた取り組みに努力をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間作りへの援助的役割も行い、関係作りを大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人･家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。何らかの都合等で他施設等に入居されたりしても必要に応じて、その後の状態や様子を確認し、家族や本人との関係を持ち、同時に仲のよかった、なのはな利用者との関係が絶えないように応援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との話の中で、本人の希望･意向の把握に努めている。家族にも得た情報を伝え、利用者の想いを大切にし、方向性を考えている。	入居者との関わりの中より思いや意向の把握に努められている。言葉だけに頼らず身振りや目線等、体を使ったコミュニケーションに取り組み表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら把握に努め職員間で共有されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部会等で個々の利用者の生活の課題、ケアのあり方についても話し合い、家族の来訪時は生活の様子を伝え、意見交換をしている。家族からの助言も大切にし、計画書に反映している。	毎日ミニカンファレンスを行い、入居者の状態像や生活暦、希望等を把握すると共に、ご家族の要望を伺い部会等で話し合い一人ひとりの特徴を捉えた具体的な介護計画が作成されている。なお状態は定期的な見直しのほか状況に応じて臨機応変に見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	部会等で話し合い、意見交換を行い、なのはな生活の中に実践し、活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居されてから家族等に様々な変化が生まれた時は、その度ごとに相談しながら利用者･家族への柔軟なサービスを心掛け、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	山形村の自然に囲まれながら、一人ひとりの脚力に合わせての散歩支援を行っている。買物等も利用者の方が一緒に同行し、行なっている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣り診療所より一人月2回の往診を行なっている。訪問看護も週1回あり(訪問看護から医者へ申し送りも行なっている)常に連携で9人の方の身体状況を見守っていることで、本人、家族への安心･安全を確保できるよう支援している。	入居者、ご家族の希望により、隣接の診療所による月2回の医療支援が得られている。長年かかりつけてこられた泌尿器科医院での受診時には日頃の健康状態について情報提供も行なわれている。なお週1回の訪問看護体制による支援もあり入居者、ご家族の大きな安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	上記同様で、訪問看護への相談等も常時可能で個々の利用者が適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	なのはな、訪問看護、診療所、そして連携されている病院関係者との連携は、利用者の状況に合わせていつも行なってきている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人･家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態を把握しながら医療との連携において、早期から家族との話し合いを設けることで一人の方の終末期をどのように過すかを利用者、家族の想いを重視し、支援している。	入居者の気持ちを大切にして、早期からご家族と話し合いを重ねホームで対応し得る最大の支援方法について職員全員で話合いが行われている。	ホームで対応しうる最良の看取り支援に向け、職員間の意思統一を図るとともに、職員教育や医療（医師、訪問看護等）、関係者と連携をとり、安心した最期が迎えられるような取り組みに期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常時、9人の利用者の身体状況変化を見逃さないよう、互いに申し送りしながら、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は3ヶ月に1回、一番不安を感じている夜間時を想定し、避難訓練を行なっている。各利用者の方の動きを確認し、どう対処すべきか話し合っている。	消防署の指導を得て年4回夜間想定の消火訓練や避難訓練が行われている。入居者全員の避難時間が20分要した。消防署より6分で全焼との助言を受け今後の課題となっている。	ホーム入居者の高齢化がすすむ中で機能低下が見られる。夜間を想定しての避難訓練が重ねられ試行錯誤した結果ホーム職員のみでの避難確保に限界であることが明白となった。今後地域の協力体制の確立に向け自治会や運営推進会議等で協力を呼びかける取り組みに期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応に日々努力し、支援している。	入居者一人ひとりのその人らしい尊厳ある姿を大切にした言葉掛けや対応について部会等で話合い職員の意識向上が図られている。なお日々の関わり方を管理者が見極め、職員指導により入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人のやりたいこと、やれることを見つけ、希望に沿う支援が出来る様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの身体状況を確認しながら、利用者の生活支援に当たっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族との連携もしながら、一人ひとりの利用者がその人らしいおしゃれや身だしなみが出来るようにそっと支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方の出来る力を活かしながら、職員と料理作り、メニューの考案、片付け等、一緒に考え、互いに協力しながら進めている。	入居者の力や希望を最大限に引き出し、買い物から献立（時には旬の食材を活用）、配膳、片付けなどが行われている。なお入居者に馴染み深い料理（餃子等）や好きなものを献立に取り入れて満足感が得られている。入居者の身体状況に配慮した食事形態の支援によりゆっくり、ゆったりと食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの利用者の身体状況を把握し、量、バランス等を考えて支援している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず全員の方の身体状況に合わせて口腔ケア支援を実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンに合わせて支援を行なっている。	日々の記録より排泄パターンを把握して、さり気ない声掛けによる支援が行われている。また一人ひとりの特徴（行動や動作など）より排便、排尿を察知してトイレ誘導がおこなわれていることを伺った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の予防として、体操、散歩、食材料、整腸薬等、工夫し、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に合わせた入浴の取り組みをしながら、個々に沿った支援をしている。	職員は入居者の体調変化等を確認して、週3～4回の入浴支援を行なっている。浴室から中庭に植えられた竹林を眺めながら又職員と談笑して楽しい入浴場面となっていることを伺った。時には季節風呂（みかん、りんご、ゆず等）によるゆったりと入浴を楽しむことができる工夫をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の利用者の体調、様子を日々、確認しながら、　一人ひとりに合った安息の支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った好ましいレク、楽しみが出来る様、ホールのテーブル等は多めに配置されている。同じ場所で時間は共有するが、好みは別であったり、逆に毎日1回は全体で関係作りが出来るレクを提案したりして、気分転換を図り、9人の方の関係は大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は毎日、一人ひとりの脚力に合わせて行われていて、地域の方々からもよく声をかけられる。又、土日に隣りのデイケアから車が大小2台借りられることでドライブ、外食、一緒の買物、そして同系列のグループホーム等へ出かけたりしている。	日常的な散歩、買い物、外食、楽しみ事の外出（花見、馴染みのお寺参拝等）や同系列のグループホームへの訪問、地域のデイホーム･デイケアへ出かけるなど積極的に外出の機会を作って支援に努められている。	入居者の高齢化に伴い身体機能の低下が見られ、散歩時の手引き歩行や車椅子利用者が増加傾向にあり、職員のみの支援には負担になっている。今後地域の住民や散歩ボランティア等との連携や協力を得て安心と安全な散歩により、楽しみや喜び、力の発揮の場面、地域との関係の継続支援に繋がるよう期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持する事は全員していない。買い物については家族から預かっているお金から一人ひとりの希望や力に合わせて話しをし、好みのものを購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	関係作りがしやすいようにホールに多めにテーブルを置き、自由に自発的に使えるようにしてある。ホールには、サンルームが目の前にあり、柔らかな日差しが天井からふりそそぎ、浴室からも、この日の光が見える。共用空間は、ゆったりとした空間を作り、全体が明るく出来ている。	回廊や居間には入居者が大切にされている作品（貼り絵、水彩画、パッチワークなど）や中学生による職場体験時の写真にメッセージが記載されており、入居者は孫を見つめるように親しみを持って閲覧されている。全体的に殺風景でなく、ほっと安らげるような家庭的な温かさが得られる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール、サンルーム等、共有の場所ながらも一人でゆったりと過ごせるテーブルが合ったり、気の合う同士で思い思いに過ごせるゆとりの場所が工夫してある。		

外部評価結果(グループホームなのはな)

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの好ましい生活感のある空間を大切にしている。	入居者が日頃から親しみ使い慣れたタンス、高さ調整された寝具、テレビや家族写真など思い出の品が持ち込まれ、配置を工夫して入居者一人ひとりに合わせた居室の環境づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ場所の配置や間違えやすい戸口で危険箇所(浴室)は、施錠することで安全の確保等をして、支援している。		